

学ラボ—プロジェクト成果報告

日本電子専門学校

黒田 輝人 (CG 映像制作科 2 年)

鈴木 宏和 (Web デザイン科 2 年)

五十嵐 絵美 (グラフィックデザイン科 2 年)

平岡 司 (電子応用工学科 2 年)

紹介教員

仲田 英起 (電子応用工学科)

学ラボプロジェクトとは

- 学科横断型共創教育 -

学科の垣根を越えた共創

5学科の教員と学生が集まり製品開発

参加学科 CG映像製作科、コンピュータグラフィックス研究科、
グラフィックデザイン科、電子応用工学科、Webデザイン科

さらに

ユーザー（今回は病院様）、企業様の協力を頂き活動

プロジェクト概要

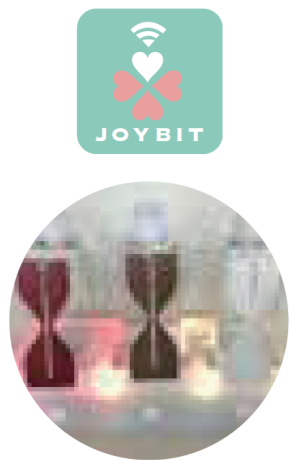
多様な専門性の学生が「フラット」
かつ「ポジティブ」に協働する

共創による新しいものづくりをしたい学生、
教育を実践している先生たち、
業界の専門家たちとのコミュニティづくり



従来の **学科完結型** から **異分野の専門性**を持つ学生同士の共創へ

今までの活動



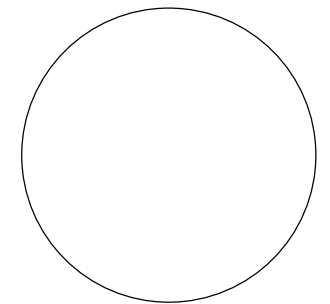
2016
Projects



2017
Projects



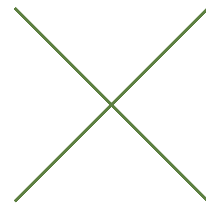
Today.....



2018
Projects

デザイン思考のプロセスを用いて

休むことのデザイン



ワークフロー

5/30 (木) 01. インタビュー調査

…看護師兼管理職の方にインタビュー

合宿

6/1 (金) 02. 共感マップ作成

…看護師さんのインタビュー内容を確認

6/2 (土) 03. ペルソナ作成

…看護師さんをモデルに共感マップからペルソナ作成

04. 着眼点の整理

…ペルソナを元にニーズとインサイトを洗い出す

05. HOW MIGHT WE

…「どうすれば」文による自分事化

06.ブレインストーミング

…HMWで作成したお題をもとにアイデアを発想

07. コンセプトマップ

…アイデアをユーザーへの影響力、チームの興味を基準に評価・選択

08. エレベーターピッチ

…サービスの概要を簡単に表現する

09. ラフスケッチ

…ビジュアルでサービスの利用シーンを表現

10. ストーリーボード

…サービス利用前から後までの気持ちの浮き沈みをグラフ化

11. がようしマップ

…画用紙を使ってストーリーを更に細分化

6/3 (日) 12. プレゼンテーション

…成果物を発表

現状

- ・ 瀬川さんは看護師でもあり、管理職でもあるのでとても忙しい
- ・ **休息の時間**が仕事量に対して**とても少ない**
- ・ 仮眠はできるけど、**常に気が張っていてしっかり休めない**

問題点

仕事量に対する休む時間が不足している



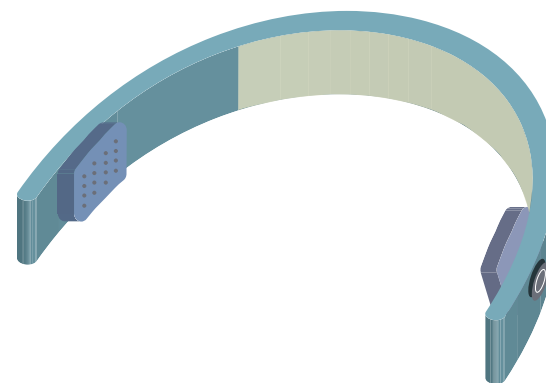
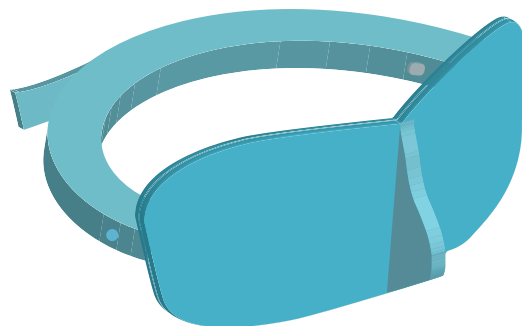
解決策

瀬川さんは、**リラックス**をする必要がある。

効果的な休息方法

短い時間で効果的に休むには**脳を休ませる**事が必要なので、
目を休ませる

IRest



効果的な休息方法

短い時間で効果的に休むには脳を休ませる事が必要なので、
目を休ませる

しかし様々な問題点が・・・

IRest



看護師さんのアドバイス

現状

▼iRest に対してのご意見

接触型であること→**衛生面**

個人用のため数が必要であること→**コスト面**

▼看護師さんが求めている環境

音を遮断して現実世界から出たい

非接触が望ましい

深い眠りは困る

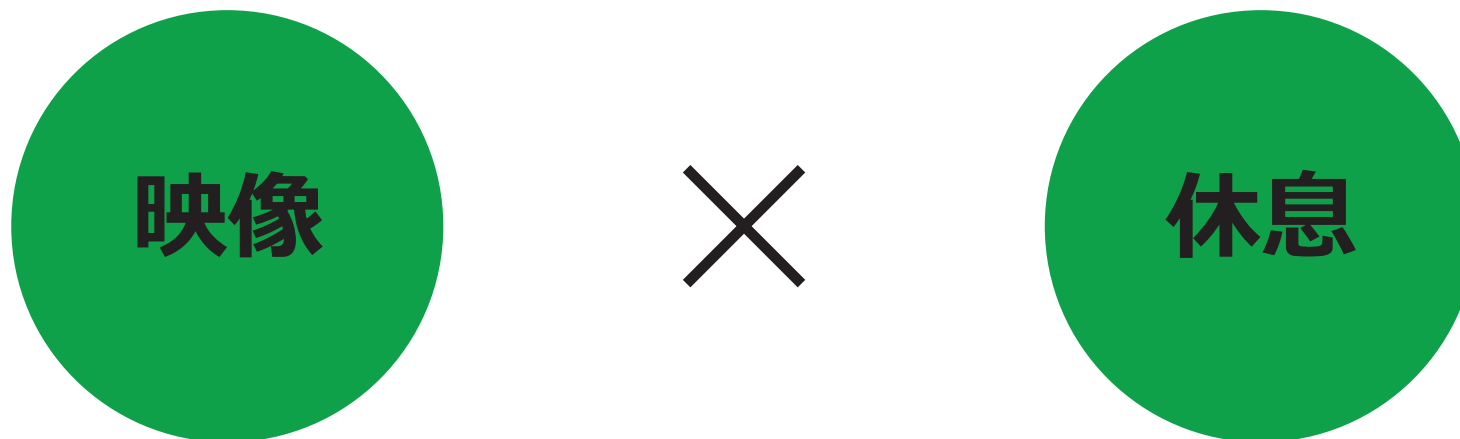


解決
方法

非接触でもリラックスできる

製品を提供する



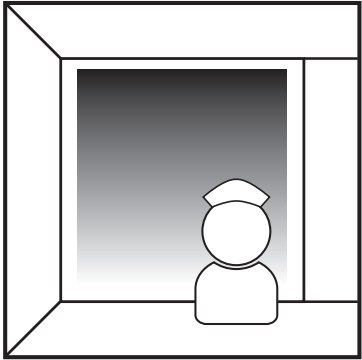
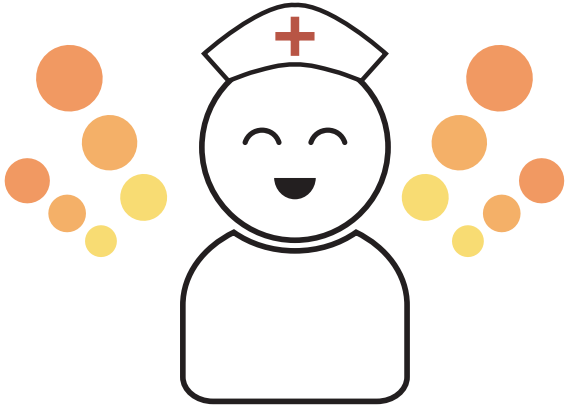
新デザイン



モノを使用しリラックスするのではなく、映像を使用し
空間そのものをリラックス空間にする

ヒーリングルーム

効果予測

 <p>今日もお仕事を頑張っている</p>	 <p>仕事量が多く、疲れが溜まってきた</p>
 <p>そこで、ヒーリングルームを使ってみることに…</p>	 <p>短時間でもリラックスできた またお仕事に戻る</p>

それでは体験する様子を映像でご覧ください

共感マップ作成

Say

- ・看護師同士でいる時間が少ない
- ・ストレスチェックの受験率・結果が悪い

Think

- ・看護師のストレスが患者さんに伝わる

Do

- ・看護師が研修に参加する機会を設けている
- ・患者さんへの声かけ
- ・看護師に対して面談を行っている

Feel

- ・もっと活躍したい

調査結果

- ・ チームワークを強くする必要がある
- ・ 忙しさを軽減する必要がある
- ・ ストレスチェックの受験率を上げる必要がある
- ・ もっと活躍する必要がある

提案

“気持ちを伝える” ツール

ターゲット

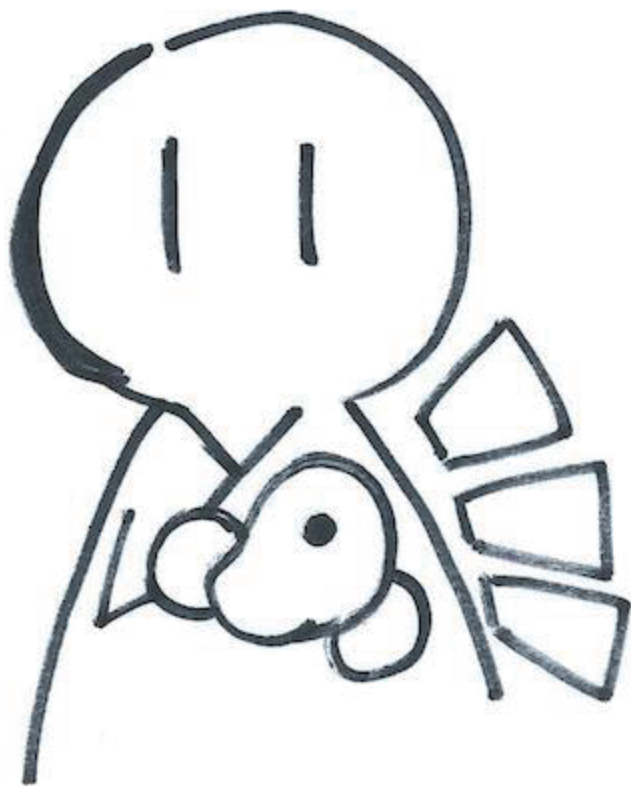
入院している
高齢の患者

みまたま

「みまもる」 × 「まがたま」

使用例

①



患者に「みまたま」を
持ってもらおう

②



「痛み」を感じた時に
「みまたま」を握ってもらおう

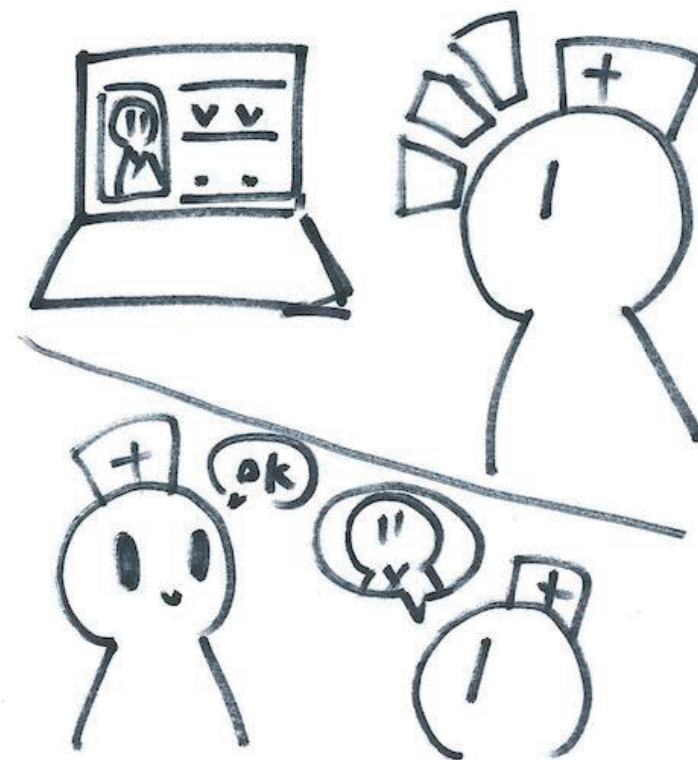
使用例

③



「みまたま」から
握られた時間、強さのデータが届く

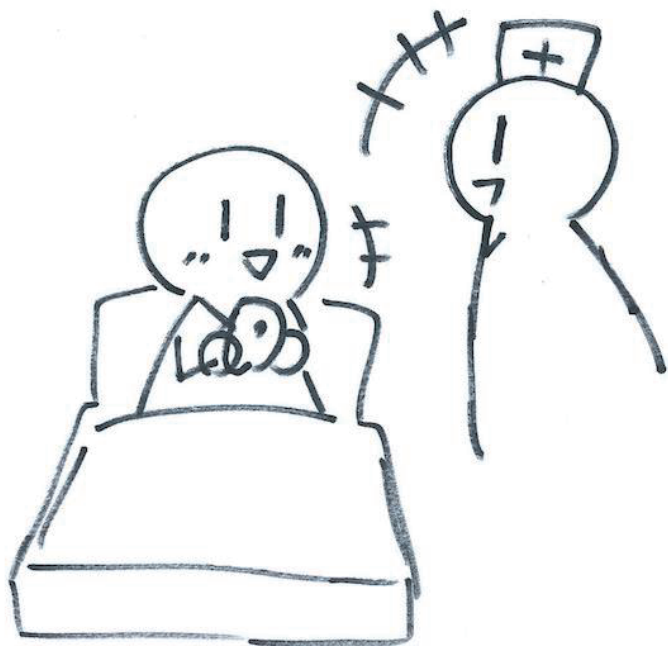
④



届いたデータを見ながら
看護師同士で声かけをする

使用例

⑤



患者と看護師との
会話のきっかけになる

⑥



患者の状態を見て
投与する薬の量や種類などを変更できる

それではデモンストレーションをご覧ください。

今回で得た学びや気づき